

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	クリスマスすまいりコンサート
団体名	NPO法人ファミリーねっとスマイリ
市担当課名	子育て支援課
事業の目的	子育て中の親子に向けた「親子で楽しめるクリスマスイベント事業」の提供
事業の実施内容	<p>尚美学園大学リパティベルオーケストラ、スマイリ劇団、川越MAMASINGERSによるミュージカルや、子どもたちへの指揮者体験を組み入れた参加型コンサート等の実施。</p> <p>○クリスマスすまいりコンサート ・実施日時：平成22年12月20日（月）午後1時30分から午後3時まで ・実施場所：川越西文化会館（メルト）大ホール ・入場者数：501人（親247人、子254人）</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <p>事業の企画及び実施、大学や団体間の連絡調整、参加者募集等</p>
	<p>川越市の役割</p> <p>事業の広報、市施設におけるポスター・チラシ掲示</p>
事業の成果	<p>入場料を無料にしたこともあり、当初予定していた400人（200組）を超えた多数の入場者を迎えることとなりました。</p> <p>また、入場者整理券についても募集開始時から好調で、約1か月で終了してしまったほどです。</p> <p>実施当日は、尚美学園大学リパティベルオーケストラ、スマイリ劇団、川越MAMASINGERSによるミュージカルや楽器紹介、子どもたちに指揮者体験等を行い、子育て中の親子が楽しいひと時を一緒に楽しんでもらい、皆が元気になって帰っていただきました。</p> <p>事業実施後のアンケートにおいても「楽しかった」、「今後も継続してほしい」などの声が多数寄せられ多くの方の満足度と今後の期待は大きいものと感じました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>すまいりコンサートのような子育て中の親子を対象とするイベントについては、今後も継続していきたいが赤字事業となってしまうので財政面で厳しい。</p> <p>事業費を確保する具体策を検討していきたいと考えています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>すまいりコンサートは補助金なしではできない為、子育て支援課または所管をさがし、協働でできるように働きかけたい。「子育ては、楽しいことがあればまたがんばれる」と思うから、年1回のイベントを応援していただきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「山田地区伝統芸能まつり」と地域交流
団体名	NPO法人川越市北部地域ふれあいセンター運営協議会
市担当課名	市民活動支援課
事業の目的	山田地区に伝わる伝統芸能を後世に引き継いでいくため、地域の子どもたちへ伝統技術の伝承を図り、その成果を地域住民に周知することで郷土の文化を残していく。
事業の実施内容	<p>○平成22年9月から各団体による稽古（伝統芸能の伝承）開始 月2回程度、稽古場所：北部地域ふれあいセンター（ホール）等</p> <p>○山田地区伝統芸能まつりと地域交流の実施 開催日時：平成23年2月27日（日）午前10時から午後2時まで 開催場所：川越市北部地域ふれあいセンター 参加者数：300名程度（※参加団体を含めた人数）</p> <p>《参加団体※出演団体順》 ①石田囃子連（10時30分～11時00分）※納め囃子も実施 ②上寺山ささら獅子舞（11時05分～11時45分） ③府川はやし連（11時50分～12時20分） ④石田ささら獅子舞（12時25分～13時05分） ⑤北山田囃子保存会（13時10分～13時40分）</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 地域の伝統芸能団体との調整、練習会場貸出、地域住民への周知 等
	川越市の役割 広報協力、事業周知等のアドバイス、協働に関する情報提供 等
事業の成果	<p>山田地区に伝わる伝統芸能のうち、お囃子や獅子舞のみなさんに演技の披露をしていただくことで、村祭りの雰囲気の子どもたちに体験してもらいました。</p> <p>各出演団体についても演技の披露に向けて、地域の子どもたちに参加してもらい技術伝承を図れる等の成果があったと伺っています。</p> <p>また、事業の当日には、北部地域ふれあいセンター入口横に山車（石田自治会所有）を設置し、寄せ太鼓を行う等、“地域の祭り”として広くアピールを行い、多く地域住民に対して、地域に根付く伝統芸能の周知が図れました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>協働事業として継続していく場合は、地域の各種団体の協力が必要な事業であり、地域団体との事前調整や経費面が課題となってきます。</p> <p>地域団体に対し支出する経費や人員の協力について、地域団体を集めた上で事前に十分な調整を行うことで対応していく。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>協働事業補助金が終了してもNPO法人の自主事業として継続していきたいと考える。</p> <p>地域住民が集い交流することによって、“子どもたちが安心して暮らせる山田地区”となるよう目指していくため継続していきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	開設100周年記念「川越織物市場・魅力・再発見」事業
団体名	川越織物市場の会
市担当課名	中心市街地活性化推進室
事業の目的	開設100年を迎えた、川越織物市場について、観光資源・地域活性化資源・歴史的文化的遺産としての価値を明らかにするとともに、広く市民の共通の認識を深める
事業の実施内容	<p>ビデオ作成（織物編、建物編の二つ作成）</p> <p>織物編 織物の産地としての川越」の歴史的文化的経済的意味を明らかにするビデオ</p> <p>建物編 織物市場の建物の歴史的文化的価値をを説明するビデオ</p> <p>シンポジウム</p> <p>日時 平成22年11月27日 土曜日 午後1時から午後3時まで</p> <p>場所 川越織物市場内（川越市松江町二丁目11番地10）</p> <p>総合司会 福田喜文</p> <p>パネリスト 田村 均 埼玉大学教育学部教授・織物史 伊郷吉信（協）伝統技法研究会・建築家・自由建築研究所主催</p> <p>コーディネーター 小島延夫 川越織物市場の会 早大大学院上智大講師</p> <p>川越市長の挨拶で開始 ビデオ上映後、パネルディスカッション</p> <p>ディスカッションには、川越工業高校の教員等も参加</p> <p>参加者は、70名</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 資料収集及びビデオ作成、シンポジウム開催
	川越市の役割 資料提供及び資料の所在についての情報提供、シンポジウム参加
事業の成果	織物の集散地・産地としての川越の位置づけ及びその歴史的過程の中での川越織物市場建設・開場の意味、さらに、埼玉県立川越工業高校との関係を明らかにすることができ、また、川越織物市場の建物の特徴を明確にし、それらを映像的にわかりやすくビデオにまとめることができた。また、それらの点についてより深める討議がシンポジウムででき、そうした点を広めることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	ビデオの常設展示をどのように継続して行うか
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	本事業以外で、ビデオ上映用機材を購入したので、これでビデオの常設展示をする。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	体験！川越の職人の技
団体名	特定非営利活動法人 川越蔵の会
市担当課名	文化振興課
事業の目的	普段あまり市民との接点のない職人さんたちの紹介や技の体験を通して、川越の文化に対する認識を深めてもらい、「住むことに誇りを持ち、住んでよかったと思えるまち川越」の実現への契機とすることを目的とします。
事業の実施内容	<p>○「体験！川越の職人の技」実施 ※川越の伝統職人の紹介と職人仕事の体験</p> <p>【第1回 実施日：9月25日（土）、実施場所：旧川越織物市場】 鍛冶職人とペーパーナイフづくり、木挽き職人が使う大鋸での丸太切り体験、様々な鋸の展示等 ≪参加者数：約100名※見学者含む。≫</p> <p>【第2回 実施日：10月24日（日）、実施場所：旧川越織物市場】 庭師と竹垣、坪庭、花器づくりの体験、大工とかんな削り体験、削りくずを使ったフラワーアート体験≪参加者数：約300名※見学者含む。≫</p> <p>【第3回 実施日：12月12日（日）、実施場所：仲町公共事業用地、旧笠間支店修復工事の現場】 蔵の修復工事現場の見学、左官職人と土壁塗りの体験≪参加者数：約50名※見学者含む。≫</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 事業に参加する職人との事前調整、アースデイ実行委員会との調整、会場設営、当日のイベント運営管理</p> <p>川越市の役割 市が実施する蔵の修復工事の現場調整や立ち会い、事業への広報協力、備品の貸与</p>
事業の成果	<p>事業の参加者は、3回合計で約450名となり、多くの市民の方が参加できた事業となったと思います。</p> <p>3回の開催でばらつきはあるものの、多くの市民の皆さんが職人の技に直接触れる機会を持つことができ、職人の伝統技術等への理解が進んだのではないかと考えます。特に、アースデイ実施日に合わせて開催した第2回では、アースデイでクイズラリーや地域通貨を企画したこともあり、多くの方が来場して直接参加者以外も職人の技を見ることができ、大きな成果が得られたと考えます。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>「協働事業」として、市民団体と市が協働していくためには、市民団体から提案された事業の目的や内容を、市の担当者がよく理解し、協働事業者として主体的に関わっていく必要があります。</p> <p>市の担当部署は、その年度に行う事業が年度当初に確定しているため、協働事業の担当課となった部署は「年度当初に予定していなかった事業」として、人的に余裕のない中で協働を余儀なくされる。このため、なかなか主体的に関わっていく人的資源を割くことができないものと考えられます。</p> <p>また、企画段階での会合や準備は、平日夜間や休日に行うことが多く、イベント実施日も休日であり、市の担当者が参加しづらいスケジュールになってしまいます。これらの問題に関しては、市の担当者も市民団体と同じスタンスで、ある程度ボランティア的な活動として参加していくような姿勢が求められると思います。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>会員の会費で運営されるNPO法人として事業に出費できる金額は限られているため、補助金が終了した場合は、同様の事業を今後も行うためには事業規模の縮小、若しくは参加費等の有料化も検討していきます。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	いのちの出前講座 ～赤ちゃんが学校へやってくる！～
団体名	NPO法人川越子育てネットワーク
市担当課名	子育て支援課
事業の目的	思春期を迎える中学生に「命の力」「命のつながり」を話し伝えることで、自己肯定感を高め、自己と他者を大切に思う心を養う。 実際の乳幼児やその親とふれあうことで、自分がうまれてきたことに喜びを感じてもらう。
事業の実施内容	川越市内の7つの中学校で実施 ■いのちってすごい（日本誕生学協会認定講師による誕生学講演/ビデオ）45分 ■赤ちゃんふれあい&妊婦体験（子育て中のママと赤ちゃん、妊婦とのふれあい体験と妊婦リュックを使った妊婦体験）各15分～20分 また、アンケート（意識調査）を生徒/先生/赤ちゃんゲスト（講座に協力していただいた子育て中のママあるいは妊婦、各回に8～19人参加）に行った。 実施校：①鯨井 10/6（水） ②名細 10/15（金） ③砂 10/28（木） ④高階西 11/2（火） ⑤東 11/4（木） ⑥大東西 11/8（月） ⑦山田 11/25（木） ※鯨井中は「いのちってすごい」のみ ※砂、東、高階西、大東西はビデオなし 7校計7.47名の生徒が参加した。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ①誕生学講師の依頼と打合せ後「いのちのはなし（誕生学）」の実施。②ゲストとして赤ちゃんやママ、妊婦さんを連れて行く。③子育て中のママの社会参加を促す。 川越市の役割 ①中学校への公募と実施校の決定②赤ちゃん和妈妈の募集告知の協力③妊婦さんの募集告知の協力・保健センターの両親学級、民間産院（市内施設）での募集告知
事業の成果	1. 中学生が「いのち」について深く考え、周囲に感謝する気持ちや、自分の存在が奇跡的だと気付いたことがアンケートなどからも読み取ることができた。 実際、実施後は生徒の表情が柔らかく、笑顔がたくさん見られた。 2. 子育て中の親から、産んだときの気持ちや、日常どんな気持ちで子育てをしているか聞くことができ、自分の親の気持ちと重ねて考えたり、将来親になるということを想像したようだった。 3. 赤ちゃんゲストとして参加した母親からは「子育て中に社会貢献ができた」という満足感や、「子育てに前向きになった」という感想が多かった。 地域では交わることのない世代が交流し、お互いの立場を理解しあえたようでもあった。 4. 子育て支援課と一体となって事業を成し遂げ、協働事業の醍醐味を知った。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	なるべくたくさんの学校へ伺いたいが、予算に限りがある。 （対策）学校側が一部経費の負担をお願いすることはできないだろうか。 予算確定から動きはじめると実施が秋になってしまうが、もう少し早く始めることはできないか。 （対策）実施希望校のアンケートは早めに行い、日程は1学期中に決める。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	生徒にとって本当に必要だと思ってもらえるのであれば、学校に一部金額を負担していただく、あるいはPTAの予算を活用するなど協力をお願いしたい。 補助金がなくても1～2校は行うことができるかもしれない、希望校が多い場合実施校の選定が難しくなる。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	新井満「千の風になって」ーいのちのうたin川越
団体名	Peaceやまぶき
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	「平和といのち」に関連した文化事業を開催し、事業を通じて市民の方々に「平和」や「文化」への関心を抱いてもらう機会（キッカケ）を提供する。
事業の実施内容	<p>○プレ企画「千の風」音楽祭兼オーディションの実施 日時：平成22年8月16日（月）午前11時から午後5時まで 場所：やまぶき会館 中ホール ・応募者数 22組（117人） ・参加者数 約150人（応募者を含む） ・公募した団体や個人によるパフォーマンス</p> <p>○合唱団練習（9/5（日）、9/17（金）、10/2（土））</p> <p>○新井満「千の風になって」ーいのちのうたin川越の実施 日時：平成22年10月2日（土）午後2時から午後5時まで 場所：やまぶき会館 中ホール ・参加者数 508人 （川越「千の風合唱団」（プレ企画応募者による合唱団）を含む） ・新井満さんの講演、朗読、歌唱 ・川越「千の風合唱団」による「千の風になって」ほか合唱</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割： 講演会・プレ企画（音楽祭）の運営及び企画。合唱団練習の調整等</p> <p>川越市の役割： 公共施設へのポスターチラシ掲示・配布。後援及び事業への参加・アドバイス等</p>
事業の成果	<p>「新井満「千の風になって」ーいのちのうたin川越」については、プレ企画の段階から幅広い年齢層の市民参加があったこともあり、当初予定していた規模よりも大きく事業展開できました。</p> <p>当日の講演会では、「いのち」や「平和」についての講話などがあり、参加された市民の皆様にも「平和」や「文化」への関心が高まったのではないかと思います。</p> <p>参加者からは「大変感動した」「充実した時間が持てた」「最後の参加者全員での合唱が良かった」などの声が多数寄せられ、「いのちの尊さ」「平和」についての思いを深めていただくことができたことと認識しています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>今回は、スタッフの頑張りや、市と協働事業として実施したことによる信頼性などから参加者多数となり、最終的には、補助金の交付がなくても事業を実施できました。</p> <p>しかし、このような文化事業の企画・運営には、人員・資金面に課題があります。スタッフのボランティア精神と「平和を守る」「文化を広める」という熱意で成り立っていますが、今後、年齢層の若い方々に関心を持っていただき“活動に参加していただく工夫”をすることが継続性を高める鍵になると考えています。そのためにも、市民参加、特に若い年齢層の方々を取り込む魅力ある企画の必要性を感じています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>・Peaceやまぶきの目的に賛同してくれる後継者を育てながら、このような平和と文化に関する事業を継続していきたいと思えます。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	庶民の伝統文化落語の振興事業
団体名	蓮馨寺落語会世話人会
市担当課名	文化振興課
事業の目的	「伝統的な話芸」として完成した芸能、落語について、川越出身の2名の落語家2名にゲストを加えた寄席を定期的に地域寄席として、歴史と伝統のまち川越で開催することにより、落語の発展に寄与しようとするとともに、地域の活性化、文化的な振興を図ろうとするものです。
事業の実施内容	川越出身の2名の落語家をレギュラーに、ゲスト1名での落語会の実施 実施場所：蓮馨寺講堂（午後6時30分開演、午後8時30分閉会） 1回目：平成22年7月23日（金） 演者：古今亭志ん八、三遊亭歌太郎、三遊亭窓里 参加者：55人 2回目：平成22年10月29日（金） 演者：古今亭志ん八、三遊亭窓里 参加者：56人 3回目：平成23年1月28日（金） 演者：古今亭志ん八、桂三木男、三遊亭窓里 参加者：66人
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 落語発展に向けた地域寄席の計画、地元NPO法人との事業実施に向けた連絡調整、事業周知等 川越市の役割 広報紙への掲載、協働に関する情報提供
事業の成果	協働事業として今年度は3回の地域寄席を実施し、いずれも幅広い年齢層の参加者がありました。落語の地域寄席を通じて地域に賑わいをもたらすと同時に、伝統文化に親しんでいただくことができたと考えております。 特に、10月の第17回は4周年記念として、川越出身のレギュラー2人による二人会を企画し、二人が二席ずつ普段東京の定席ではあまりやらない演目を行い、大勢のお客様に喜んでいただきました。また、1月の第18回では、普段、地域寄席の開催に協力いただいている地元NPO法人代表の挨拶などを行い、地元NPO法人との協働についてもこの事業を契機に、より促進できたのではないかと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	当会が蓮馨寺落語会を実施して今年で5年目となります。 庶民の伝統話芸である落語を継続的な地域寄席として川越に根付かせることが大事であると考えており、そのためには市との協働だけではなく地元の団体との協力関係が必要です。今後も地元の団体とより良い協力関係を築いていきたいと思っております。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	蓮馨寺落語会のような地域寄席の世話人の一番の悩みが落語家への出演料と場所です。落語家の方に出演してもらうには、ある程度の出演料が発生します。その一方で、多くの方に見ていただくためには入場料は高く設定できません。さらに、開催する場所の一定期間の確保にも苦勞します。現在は、蓮馨寺のご厚意で確保はされていますが、出演料はどのような形でも継続的に発生します。 補助金が終了した場合でも、入場料の引き上げや開催回数の削減若しくは休会などにならないよう“身近で伝統芸能が見られる数少ない場所”を継続していきたいと考えています。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	視覚障害者によるコンサート
団体名	NPO法人 らぶ・あいず
市担当課名	障害者福祉課
事業の目的	視覚障害者への理解を広めるための活動 視覚障害者が仕事をもち地域社会と関わり通して充実した豊かな日々が送れるようサポートする事業
事業の実施内容	「らぶ・あいずコンサート」の実施 (以下は予定スケジュール) 日時：平成23年3月26日(土) 14:00～ 場所：埼玉県立特別支援学校塙保己一学園 寄宿舍プレイホール 視覚障害者支援施設に通っている視覚障害者たちが日頃音楽教室で学んでいることの発表の場などとして、コンサートを実施。 視覚障害者による歌や合奏に加え、川越において30年以上活動している混声合唱団「川越コールフロイデ」による合唱や視覚障害者と同合唱団のコラボレーションによる合唱等を予定
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業企画全般、各種施設等への広報等
	川越市の役割 広報(市役所、市の施設等へのポスター掲示、チラシの設置等)
事業の成果	平成23年3月11日に発生した「東北太平洋沖地震」及びその後の状況を踏まえ、出演者・参加者の安全や交通手段等を考慮・検討した結果、コンサートを中止しました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	子ども大学かわごえ学園祭” こどもがつくるまち第2回「ミニかわごえ」”
団体名	NPO法人子ども大学かわごえ
市担当課名	地域教育支援課
事業の目的	子ども大学かわごえの「生き方学」の職業体験版として、川越市内の小中高校と連携して「ミニかわごえ」を実施する。
事業の実施内容	<p>○3月12日（土）及び13日（日）の両日、市内蓮馨寺境内において子どもたちが職業体験をする「こどものまち」をつくる「ミニかわごえ」の実施</p> <p>・市民登録所、職業紹介所、銀行、税務署等の店舗の他様々な作業所や工房、食べもの屋やゲームセンターなどの店舗を配置し、子どもたちが働いて生産活動を行い、おカネを稼ぎ、それを使って消費活動をする場をつくる。そしてそのようなまちづくりを子どもと大人が力を合わせて行う。今年度は、体験学習としての性質をさらに進めるべく、市長選の実施等も予定していた。</p> <p>○平成22年7月から実行委員会による検討・準備を行い、同年12月以降並行してワーキンググループ会議を実施し、準備を進めた。 12月以降市広報への掲載をはじめとした広報活動を行い、平成23年1月から、参加者の募集を行った。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 子どもを巻き込んだこどものまちの企画と運営
	川越市の役割 関連情報の提供、広報活動の支援など
事業の成果	準備万端完了した3月11日に東関東大震災が勃発、「ミニかわごえ2010」は中止となった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域の仲間づくり・たすけあい活動
団体名	かすみ野たすけあいの会
市担当課名	高齢者いきがい課
事業の目的	超高齢社会の中で、誰もが地域でいつまでも暮らしていけるように「地域の仲間づくり、たすけあい活動」を行い、地域福祉に貢献する。
事業の実施内容	<p>○地域の仲間づくり活動の実施</p> <p>(1) 「ふれあいサロン」の実施 実施日：毎月1回 実施場所：かすみ野自治会館 参加者数：各回40～50名程度 実施内容：地域包括支援センターのケアマネージャーによる講義 童謡体操、参加者出しもの、コーラスなど</p> <p>(2) 「折り紙クラブ」の実施 実施日：毎月1回 実施場所：老人ホーム真寿園 参加者数：各回20名程度 実施内容：真寿園入所者と交流しながらの折り紙</p> <p>(3) 健康体操クラブの発足（※平成22年11月から実施） 実施日：毎月2回 実施場所：かすみ野自治会館 参加者数：各回10名程度 実施内容：介護予防サポーター養成講座修了者による体操講座</p> <p>(4) たすけあい活動の検討 地域住民による相互のたすけあい活動を検討し、地域住民を対象に支援内容、実施方法等のアンケートを行った。その後、実施に向け調整を行い平成22年10月からスタートさせた。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による「地域の仲間づくり活動の企画及び実施 ・地域住民への事業周知及び協力依頼 等 <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの事業協力 ・市の高齢者施策に対する情報提供 等
事業の成果	<p>ふれあいサロン等の実施により、地域での市民福祉活動を広めるための機会が得られました。協働事業としたことで、地域包括支援センターも積極的に協力していただきました。</p> <p>参加者からも好評で、利用者が誘い合い参加されている状況となっています。</p> <p>また、事業を企画していく過程で、公的支援ではカバーされない生活支援といった“たすけあい活動”の検討ができ、その結果平成22年10月から地域住民による有償支援活動が発足できました。</p> <p>(※平成23年3月現在、利用会員41名、協力会員36名)</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>事務局の体制強化及び会員の送迎が課題となっています。事務局体制については、長期的に事業を継続することで、自ずと道が開けるであろうと考えております。また、ふれあいサロン等を地域に広く周知し、参加者を募る中で、送迎可能な人に協力を仰いでいきたいと考えています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>補助金が終了しても、地域の誰もが地域でいつまでも暮らしていけるように事業を継続していきたいと思っております。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成22年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	災害時における自主防災啓発事業
団体名	川越市自主防災会連絡会
市担当課名	防災危機管理課
事業の目的	万一の自然災害等の発生時に、市民が適正な対応をとれるようにすることを目的とした普及啓発活動等を行う。
事業の実施内容	<p>市内の自主防災組織で統一した“災害時における対応の仕方”について、啓発チラシを作成し、市民への啓発活動を実施。万一の災害時において自主防災組織のリーダーが着用する防寒着を作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年9月：災害時用防寒着の作成 ・平成22年10月～平成23年1月：啓発用チラシ検討 ・平成23年2月：啓発チラシ印刷（15,000部） ・平成23年3月中旬：啓発チラシの自治会回覧
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 地域住民への協力依頼
	川越市の役割 市の災害対応等にかかる施策等の情報提供及び関係課との連絡調整。 災害用給水井戸の操作説明。
事業の成果	<p>近年、世界でも大地震が頻発しており、メディアにも多く取り上げられている。地域住民も万一の災害時に関して、どのように対応すべきかを不安に感じている方は多いと思われる。このような状況の中で、市もホームページや広報にて啓発活動を行っているものの、その効果は全住民に浸透しているとは言えず、当該事業にて、住民に対し、避難場所及び避難所について周知するなど、防災意識の高揚を図れたことは大きな成果である。</p> <p>また、防寒着の作成に関しては、市内で住宅火災のあった際に、自主防災組織のリーダーの目印になったという意見もあり、今後も災害の規模に関係なく、活用できることが見込まれる。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	当該事業を行うにあたっては特に問題はなく、協働事業として継続する予定はない。今後、本連絡会で協議し必要があれば活用していきたいと考える。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	当該事業については、本年度に限りで実施したものであるが、本連絡会は市内地域の防災力を向上するために結成された組織であり、今後もこの目的のため活動を継続していくものである。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。